

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

大淀川左岸地域における用水の管理について

～大淀川左岸土地改良区 事務局次長兼管理係長 菊池 信夫 氏～ 宮崎県宮崎市

1. 大淀川左岸地区農家のために

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、「国営大淀川左岸土地改良事業」により造成された農業水利施設等の管理をはじめ、土地改良区全体の調整を行っている大淀川左岸土地改良区事務局次長兼管理係長の菊池信夫さんである。

本地区は、宮崎県の中心部を流れる大淀川の下流域左岸に位置し、霧島火山灰を母材とした特殊土壌の堆積した畑台地と大淀川及びその支流河川により浸食形成された沖積平野の水田地帯へ農業用水の安定的な確保と供給を目的として、約1,700haを対象に昭和53年度から平成16年度にかけて実施された。

菊池さんに今の仕事に就いた理由をお聞きしたところ、「大学では一般土木を専攻しており、卒業後、土木のコンサルタントに就職し、橋梁の設計等行っていた。仕事自体はおもしろかったが、設計までで完成した物を見られない、完成による周囲の喜びが見えないことから、直接地域の人と仕事をし、役に立ちたいという気持ちが徐々に強くなっていった。実家は農家ではないため土地改良区の存在すら知らなかったが、たまたま土地改良区が立ち上がる前の協議会が採用を募集していたため、調べたところ農家の要望に直接応える仕事だとわかり、土木のコンサルタントを退社し採用試験を受け、運良く今の仕事に就くことができた。」とのこと。



大淀川左岸土地改良区



菊池信夫さん

菊池さんは大淀川左岸土地改良区に勤務して11年目だが、最初の1年は土地改良区の設立等、右も左もわからない中で、やらなければならない、昼夜とわず仕事をされたとのこと。現在は落ち着き、事務局次長兼管理係長として、施設の維持・管理から総代会等の調整資料作成等、土地改良区の業務全てに精通されている。

2. 施設の管理作業等について

大淀川左岸土地改良区は、国営大淀川左岸土地改良事業及び関連する県営事業で造成された農業水利施設等を管理しているが、主な内容としては、水利情報を確認しながらの施設の巡回やダムの放流等である。配管の漏水や大雨等の緊急時には、土日も含めた対応を行っており、土地改良区の正規職員4名で当番を割り振り3



水利情報確認

65日休みなしで働いている。そのため、当番の日には遠くへ出かけることができず、また、家にいても休んでいる気がしないとのこと。

3. 苦労されたこと

これまでの苦労についてお聞きすると、「まず土地改良区1年目（平成17年）に、思い出したくないほどであるが、まだ業務も何もわからない中、大きな台風の襲来により、事務所を含め辺り一面が浸水となった。ダムの管理所に缶詰めになり、なんてひどい目に遭うのかと思った。」と話し始められた。

また、「同じ年にパイプラインの漏水により、道路が車3台入るくらい陥没し、その大きさと水の力に驚きながらも、その後の対応等に大変苦労したことが印象的で、今でも鮮明に覚えている。今はそのころから比べると、施設管理を把握し、これらの災害時の対応の経験を活かした緊急時の管理体制も構築したため、対応も楽になった」と当時の苦労を懐かしそうに語っていただいた。

4. 仕事への思い

菊池さん曰く「土地改良区設立当初は、新規採用の2人でひととおりやらなければならなかった。上司がいなかった訳ではないが、何事にも中心になって行う必要があり、関係市町長や理事長等とも直接やりとりを行った。この様に、いろんなことを1年目からやらせてもらったことが、責任を持って考え、実行することに繋が



水利情報

り、それが理事長等からも認めてもらえ、やりがいに繋がっていった。」と語る。

また、「農家からは、水はいらないと言われたりもするが、いざ水が止まると、いつ水が出るのかとせつつかれたりする。なんだかんだ言っても農業を営むためには水は必要なのだ。そして水が届く様になると感謝とともに農作物を少しいただけたりするので、役に立っているんだと直接感じる事ができてうれしいし、やりがいを感じるの事。そのため何があっても逃げずに自分ができることを最大限勤め上げることが大切であり、日々を頑張ることが大切だ。」と菊池さんは語った。



広沢ダム

さらに、「土地改良区が管理するダムには小水力発電設備がある。売電した分は維持管理費にあてられるので助かっているが、故障等で夜中に止まった場合、改良区職員は、収入が減少しない様、夜中でも現場へ行き少しでも運転できるようにしている。こういった努力の積み重ねが、突発的な出来事にも対応できるような強い組織を作っていくのではないかと思います。」と話された。

5. 終わりに

上司である湯地初男事務局長に菊池さんについて伺ったところ、「土地改良区設立当初から熱心に携わっており、土地改良区の中心人物としてとても頼りにしている。」と、厚い信頼を寄せていた。

今後も土地改良区の中心人物として、日々の努力を強みに、御活躍されることを祈りご紹介とさせて頂く。

【九州農政局農村振興部設計課】